



GREEN BREEZE

軽井沢観光協会広報誌



2019年度写真コンテストグランプリ
 「星空の朝」土屋 芳孝氏



標高1000mのウェルネスリゾートにようこそ

Contents

- 1 対談..... 2p
 - ペットツーリズムの市場と発展の可能性
- 2 観光協会活動報告 4p
 - フランスのワインツーリズムに学ぶ
- 3 委員会報告 5p
 - 軽井沢町ホスピタリティ講演会
 - ドッグツーリズム グッドマナーキャンペーン
 - 第4回 軽井沢 WEB 検定
- 4 Ruizaちゃん!取材日記..... 6p
 - 70周年式典報告
 - 軽井沢ウエディングバスツアー報告
 - 第4回 軽井沢ウエディングアワード
 - 軽井沢テレワーク
 - タイ観光プロモーション
- 5 軽井沢 information 8p
 - 2019年度軽井沢写真コンテストの報告 他





Special Interview

ペットツーリズムの市場と 発展の可能性



東海林 克彦氏
(公益社団法人日本愛玩動物協会会長、
東洋大学副学長・国際観光学部教授)



土屋 芳春
(一般社団法人軽井沢観光協会会長)

軽井沢観光協会(以下、当協会)では観光の多様化と人々の消費行動、ニーズを踏まえ、様々な可能性を求め観光戦略を練っています。その中で、近年特に注目されているのが「ドッグ・ツーリズム」です。ドッグ愛好者は町民に限らず来軽者にも多数見られ「人間同様自然豊かなウェルネス(健康)気候に恵まれた軽井沢でドッグも元気を取り戻せた」との声も多く聞きます。

当協会では、軽井沢のホスピタリティーの高い滞在型リゾートを標榜していることから、

ドッグにおいても学びや施設と利用者相互の軽井沢ルールを定め、軽井沢らしいドッグ・ツーリズムの提案を進めるため、2016年に『ドッグ・ツーリズム推進プロジェクト』を設立しました。現在趣旨に賛同し参加している企業は、宿泊24件、飲食68件、ショップ等33件、病院4件となっています。

この度、ドッグ・ツーリズムに造詣が深い東海林克彦氏にドッグ・ツーリズムの現状と未来像等についてお聞きしました。
(※)新型コロナウイルスの関係でWebにて懇談を行いました

(土屋) ドッグの場合昔は外飼いが多く見られましたが、“心の家族化”はさらに進むと思います。豊かなライフスタイルの志向が高まる中、人々の意識はどのように変化してきたのでしょうか。

(東海林) 犬は番犬、猫はネズミ捕り、というのが昔の飼い方でした。しかし、今は室内飼いが進み、平均寿命も延びたことから、まさに家族同然の存在になっています。いわゆる「癒し」をもたらしてくれる、かけがえのないパートナーとして意識するようになってきたのではないのでしょうか。

(土屋) 現在、ペット同伴宿泊市場は約500億円、同伴宿泊ホテルも約1100件と聞いています。この市場は今後どのように推移すると予想されますか。また、ドッグに限ってはいかがでしょう。

(東海林) ペットフード協会の調査

によりますと、犬の飼育頭数は微減、猫の飼育頭数は微増とされています。しかし、注目すべき点は頭数ではなく、飼い方の質的内容の変化であると思っています。家族同然の存在になってきたことから、ペットフード・トリミング・医療・ペット保険などに手厚い手間をかけるのは当然であるという流れになってきています。そのような中で、ペットとの楽しい暮らしの思い出づくりとして、ペットと一緒にのお出かけは、増えることはあっても減ることはないと考えられます。特に、愛犬の場合は、その傾向が顕著です。

(土屋) ツーリズムのハード・ソフトについてお聞きします。先ほどの意識変化と重なりますが、ハード・ソフト面での整備はどのように変化をしていますか。

(東海林) ペットと一緒に旅行に行くのが珍しかった時代は、泊まれるだ

けで充分でした。しかし、今は単に宿泊するだけでなく、いかに快適であるかにかに楽しむことができるか、に焦点が当てられてきています。そういった意味では、観光地全体として、泊まる・食べる・買い物をする・遊ぶといった一連の観光行動のすべてを、ペットと飼い主にとってフレンドリーなものにするための面的な整備が必要です。また、受け入れ側のスタッフも、ペットと飼い主の気持ちや行動パターンを理解できるようにならないと、顧客満足度の高いサービスを提供することは難しいということになります。

(土屋) 飼い主と受け入れ側の意識の差異はどのようにみられるのでしょうか。

(東海林) ペットツーリズムに限らないことですが、提供したいこと・売りたいことが優先されるのではなく、飼い主とペットが望んでいることを



適切に提供できるようにすることが大切です。また、飼い主とペットのニーズは変化が著しく、飼い主ですら何を求めているのかを具体的に表現できないことがあったりしますので、先読みができるぐらいのリサーチがより重要となってくるのかもしれない。

(土屋) ドッグ市場の拡大とともに様々なサービスが期待されています。ニッチな業態も含め、どのような事例がありますか。

(東海林) 普段はなかなかできないことができる、というのがキーコンセプトになると思っています。都市的なサービスもある程度は備えておく必要があると思われますが、例えば一緒に雪遊びをする・カヌーやキャニオニングを楽しむ・大自然の中をトレッキングするなどといった「アウトドア・アクティビティ」は、飼い主にとってもペットにとっても忘れられない楽しい体験になります。軽井沢は、こういったサービスを提供できる絶好のロケーションにありますので、是非とも他の観光地にはない軽井沢らしいペットツーリズムのあり方を探っていただきたいと思っています。

(土屋) 軽井沢のドッグ・ツーリズム推進プロジェクトは5年目に入り、その業績が認められ「全国ペット・ツ

リズム連絡協議会」より『ペットツーリズム大賞』を授与いただきました。先生が関わられている協議会ですが、改めて本プロジェクトへの評価はいかがなものかご紹介いただけますでしょうか。

(東海林) ペットツーリズムに取り組んでいる観光地は、全国各地にあります。その中で軽井沢は、短期間のうちに、官民共同によって目覚ましい成果を具体的にあげているところが素晴らしいと思っています。関係者の方々のご苦勞は、大変なことであつたらうと拝察しております。

(土屋) 最後に、ドッグ・ツーリズムの課題(マナーアップ、環境保全等)と解決法、さらには当町企業の事業化の可能性と期待することを伺えればと思います。

(東海林) 軽井沢は、歴史的に見ても常に「観光」の先導者でした。ペットツーリズムの分野においても、是非とも全国の観光地に先駆けて

のリーダーシップを発揮していただきたいと願っています。そのためには①単にペットと一緒に宿泊できるだけではなく、様々なアクティビティを楽しめる場所にする②訪れた飼い主の方々が襟をたださなければならぬような(マナーを守らなければならないような)環境・雰囲気づくりをすること③受け入れ側のスタッフがペットのプロになるための教育を地域全体として展開すること④公共施設としてのドッグランの整備などのペット・インフラストラクチャーの拡充を図ることを実現していただけることを願っています。

(土屋) ペット市場の拡大とともに、飼育側、施設側双方の意識向上の必要に迫られています。と同時に、軽井沢は良質なリゾートを標榜していることから、ペットと共生する環境整備と理解する社会構築を進めてまいります。



『東海林 克彦 しょうじ・かつひこ』氏

東洋大学副学長・国際観光学部教授、(公社)日本愛玩動物協会会長
1959年生まれ。新潟大学農学部・東京大学大学院農学系研究科修士課程修了。博士(農学)。1983年に環境庁(省)入庁、施設整備課事業計画専門官や動物愛護管理室長などを歴任後、2007年より現職。専門は、景観・観光開発地計画・観光政策・人と動物の関係学など。

観光協会活動報告

フランスのワインツーリズムに学ぶ

長野県ではブドウ栽培とワイン醸造を次世代産業の中核の一つと位置づけ「信州ワインバレー構想(県内4ブロック)」を推進しています。中でも東御市を中心とする「千曲川ワインバレー東地区」は8市町村が合同で広域ワイン特区を構成するなど、小規模ワイナリーの集積が進む先進的な地域です。2019年10月下旬、長野県観光機構(県DMO)とともにフランスのワイナリーや都市を訪ね、品質管理や魅力の発信とツーリズム等について学ぶ機会を得ました。

①ブルゴーニュワインの中核都市である「ディジョン市(コート・ドール県の県庁所在地・人口約15万人)」。ユネスコ世界遺産にも登録されている「ブルゴールのブドウ畑のクリマ」には広大なブドウ畑が広がり、その美しい風景は人心を和ませます。ディジョン観光局では局自体の評価、来訪者エリアやパーソナルデータをアンケートにより取得、マーケティング戦略や事業の向上に努めています。ワイン産業がもたらす富と地域価値、来訪者を裏切らない満足度向上、地域住民の誇り醸成とともに、歴史や風土など地域資産を生かす活動と地域を挙げて取り組む姿勢から、多くの示唆をいただきました。

②「ボヌ市」は人口2万人。毎年11月に開かれているワイン・オークションには世界中からワイン関係者や嗜好家・観光客が集い、世界的なイベントとして認知されています。モンラッシュ、ロマネ・コンティ、ムルソー、シャンベルタン、ポマールなどの名だたる特級畑があり、その畑を巡り試飲するツアーが人気です。ツアーに参加し、数件のワイナリーから経営ノウハウやコンセプト、並びに戦略やホスピタリティーについて学びました。特に、現地での購入(品質維持のためワインに旅をさせない)の意義に触れ来訪を促すとともに、美食地域でも知られていることからオノツーリズム(ワイン関連ツアー)の品質(ツアーガイド、催行会社、ワイナリーでのソムリエによるワインや食のガイド、製造工程・畑・土壌・試飲・販売等の一連の施設ガイド、ホスピタリティーの質)に優れた人材が関わることにより顧客満足度向上を図っています。

地域や個々ワイナリーにおいて*テロワールを感じさせる上質なプロモーションを行っていることや、品質の維持はもとより地域全体でブランド価値を下げない取り組みに感銘を受けました。

県DMOでは、比較的歴史の浅い「千曲川ワインバレー」について、自治体にまたがることからその調整を行うとともに、ブランディング戦略の構築や総合的なプロモーションを行う準備を進めています。

軽井沢観光協会では、ワイン文化を観光の重要な資源と捉え、軽井沢をゲートウェイとする広域観光コンテンツとして生かし、このことによる広域観光連携を強化し滞在や消費単価の向上につながる事業を進めてまいります。

※ブドウ畑を取り巻く自然環境要因のこと=フランスのワイン法(原産地統制名所)のベースとなり、個々のブドウ畑から造られるワインは特有の個性を表す、との考え方。気象条件・土壌・地形・標高・造り手などそのブドウ畑を取り巻く全ての自然環境を意味する。(キリンHPより)

会長 土屋 芳春



写真① シャトー・ド・ポマールで試飲や土壌について学ぶ



② お洒落で多種のワインが揃う、街角のショップ
③ 超一級のワイン畑が美しい景観を保つ

委員会活動報告

軽井沢町ホスピタリティー講演会

令和2年2月25日に、軽井沢町ホスピタリティー講演会を軽井沢中央公民館で開催しました。

テーマは「いい会社をつくりましょう」～会社は社員の幸せのためにある～

講師は「かんでんぱぱ」シリーズで有名な伊那食品工業株式会社の塚越社長です。

日本で一番大切にしたい会社にも選ばれている伊那食品工業(株)は、木から学ぶ年輪経営をしています。寒さ暑さなどの環境によって幅は変わるが、成長を止めずに確実に年輪を増やしていく木、この木から学び、会社が少しずつ大きく成長していくことを目指した経営です。会社が永続的に安定成長することにより、多くの人々を幸せにすることができます。社員は会社を家族と捉え、自分が何をすれば貢献できるか考え、成長できた自分に喜びを感じ、楽しく働いています。毎朝自主的におこなっている掃除は『気づきの訓練』が目的です。売上や利益ではなく、雇用を作り続け永続することが企業の責任であるというお話でした。



未来構想委員会 坂井 博之

グッドマナーキャンペーンの報告

軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクトでは、2020年2月20日から3月22日の期間でグッドマナーキャンペーンを展開しました。

これは参加店舗や町内施設を訪れてくださったワンちゃん連れファミリーの中で、素敵なマナーの方々へ「ありがとう」の気持ちを伝えるもので、みんなが笑顔になれるようなマナーのお客様に対して、各施設のスタッフがお礼の言葉と共に「Thanks Good Mannersカード」を差し上げるという展開でした。また、本カードはペア宿泊券をはじめ素敵なプレゼントが当たる抽選カードにもなっており、3月23日に厳正なる抽選を行いオフィシャルサイト上で当選発表をしました。

ドッグツーリズム推進プロジェクトのオフィシャルサイト上で当選番号確認したお客様には、本プロジェクトの全体像を知っていただけたと思います。

実施時期が新型コロナウイルス対策の時期と重なってしまいましたが、ご協力いただいた施設スタッフが感心するようなマナーのファミリーもいらしたようで、次年度に繋がるマナーアップキャンペーンとなりました。

また、本キャンペーンに併せて、当プロジェクトオリジナルの除菌消臭剤となる木酢液も無料配布しました。



マナーカード



除菌消臭剤

軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト 西山 紀子

オフィシャルサイト <https://www.karuizawa-withdog.com/project>

第4回軽井沢WEB検定

令和2年2月2日(日)3日(月)第4回軽井沢WEB検定が行われました。今年は軽井沢観光協会創立70周年を記念し、受験料を値引きして開催いたしました。今年の合格者は52名、多くの皆さんが合格されました。

昨年より「軽井沢WEB検定合格者の集い」を行っておりますが、COVID-19の影響で今年度は延期とさせていただきます。11月中で再度企画致しますので合格者の方はお楽しみにしてください。

<第4回軽井沢WEB検定結果>

	申込者数	受験者数	合格者	合格率
1 級	5	3	2	67%
2 級	19	19	17	89%
3 級	49	48	33	69%
合計	73	70	52	74%

軽井沢WEB検定は軽井沢のファンを作るだけでなく、更に軽井沢を好きになり、この町に住みたい、住み続けたい、もっと良い町にしたいという気持ちが芽生えます。

今後も検定を通して魅力を実感できる「まちづくり」につなげたいと考えます。観光業に携わる方は、ぜひ積極的に受験していただきたいと願っています。 組織強化委員会 高見 康昭



～ 70 年に感謝、そして次代へ～

軽井沢観光協会（以下、当協会）は“観光を経済の基盤として軽井沢の発展に尽くそう”とする先輩諸兄の英知と勇気と情熱により、戦後の混乱が収まらない昭和24年に発足しました。そして平成元年11月、会員はもとより来賓、関係機関・関係者およそ120名の方々に参加をいただき、70周年式典を挙行了いたしました。記念講演では慶應義塾大学理工学部 栗原教授に「テクノロジーで観光を強化する」をテーマに、“進化を遂げるITやAIは、地域や観光業にも利用できる”旨のお話をいただきました。



観光は創造産業です。当協会は観光立町・軽井沢の中核団体として、刻々と変化する社会情勢をみながら先進的な取り組みをまいりました。特にここ10年は来軽者の欲求と目的が高度化・多様化していることから、既存事業の強化と新たな市場開拓のために組織と事業改革を進めています。

当協会は、先人が“屋根のない病院”と称した標高1000mの軽井沢の風土・気候に鑑み、観光ビジョン『美しい村（心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する）』とする“ウェルネス・リゾート構想”を表明しました。近年、ウェルネスに関しては科学的論拠が進みつつあり、他地域との差別化や優位性確認のためには欠かせない概念と考えています。

軽井沢は潜在力を駆使し地域観光総合力を高めていかなければなりません。皆様方には今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



会長 土屋 芳春

2019&2020 年輕井沢ウエディングバスツアー

2019年12月～2020年2月まで5回開催した軽井沢ウエディング9会場をまわるバスツアーですが、総勢35組70名様に参加頂きました。富山県や愛知県など、遠方からバスツアーに参加頂いたお客様に軽井沢町や軽井沢ウエディングの魅力伝える絶好の機会となりました。実際にツアーで見学した会場で式の日取りを決めたお客様もいました。軽井沢町と素敵なお縁ができたカップルのお手伝いを、協会施設一同で精一杯努めて参ります。



第4回 軽井沢ウエディングアワード

軽井沢ウエディング協会加盟会場から選出された6会場の現役ウエディングプランナーにより「軽井沢を選んだ理由」をテーマに自身が担当した結婚式の事例をプレゼンテーションしました。軽井沢ファミリーオーケストラの生演奏で幕開けし、モエ・エ・シャンドンのシャンパンセミナーも開催されました。会場には応援団や一般観覧者約150名が参加し、その中には長野市や群馬県のブライダル専門学校の生徒の姿もありました。



審査委員と一般観覧者による投票により、グランプリは軽井沢プリンスホテル フォレスターナ軽井沢 高橋奈央さん、準グランプリはアネーリ軽井沢 小林なつみさんに決定しました。今年も軽井沢から素敵な結婚式の発信ができた1日となりました。

軽井沢ウエディング協会 学ぶ会 坂本 行俊

軽井沢とテレワーク

自然の中で交流が広がり、仲間が増えていく。軽井沢は様々なコミュニティが別荘文化の中で自然発生的に生まれてきました。

分け隔たり無くウェルカムするマインドがある軽井沢は、近年様々な企業の役員会・幹部会・プロジェクト会議が開催され、2016年ころからは※1テレワーク、※2リモートワークを活用した「リゾートテレワーク」「Wokation (Work×Vacation) 等の将来の可能性を模索しながら、実証実験や体験会の開催を重ねてきました。

テレワークはこれから開催されるオリンピックとパラリンピックに向けての対策として注目される中、世界中を巻き込んだ新型コロナウイルスへの対応と重なり、世間は「テレワーク」への注目度がさらに高まってきました。

「軽井沢リゾートテレワーク協会」は、2018年7月24日に軽井沢観光協会・軽井沢町商工会・軽井沢旅館組合・軽井沢町が連携し、リゾートテレワークを推進する為設立されました。

現在、会員施設は16施設あり、そのうち13施設がワーキングスペースとして稼働しております。

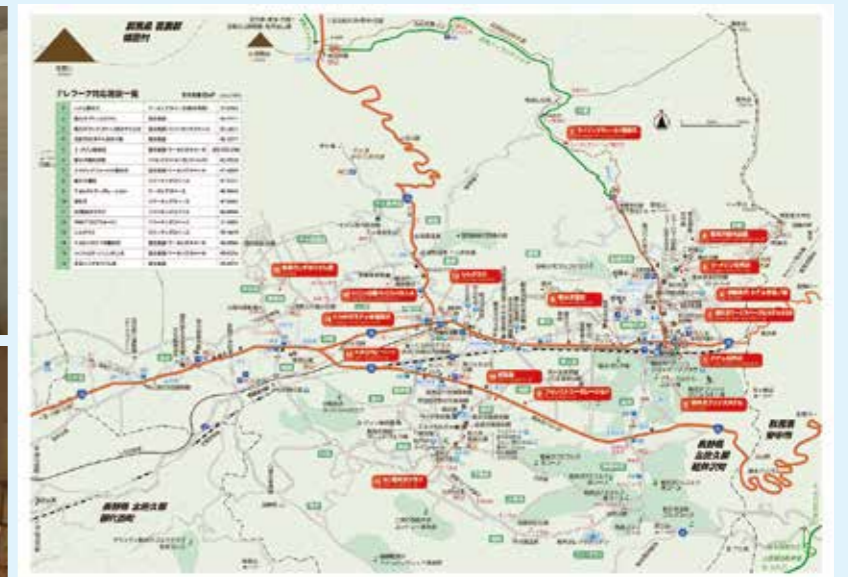
今後も、新しい軽井沢の施設として、さまざまな可能性を模索していきます。

※1:テレワーク:情報通信技術(ICT = Information and Communication

Technology)を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。

※2:リモートワーク:在宅勤務。所属している会社のオフィスではなく、自宅で働くことを指します。

事務局長 工藤 朝美



テレワーク対応施設 16 軒 (2020 年 4 月 10 日現在)

オフィシャルサイト URL : <https://karuizawa-work.jp/>



タイで軽井沢の認知度は確実にアップしています！ ～タイでの観光プロモーション報告～

2019年11月8日～10日に『Visit Japan FIT Fair 2019(第13回FITフェア) in タイ』に出展しました。長野県内からは過去最大の10団体が出展し、長野県の存在を大きくアピールできました。

軽井沢ブースでは軽井沢の認知度をさらに上げるべく、観光協会のFacebookやタイ語ホームページへのアクセス数増加につながるプロモーションをしました。ガラポン(抽選)で景品が当たるようにしたことにより、アクセス数が3日間で500アクセス増加を達成しました。

軽井沢の認知度は確実に上がっていて、軽井沢町内での移動方法やお勧めの食事など、具体的な質問が多かったことが特徴でした。タイ人の関心の多くは、ショッピングやホテル・体験などに関してで、今後はこのような情報を発信していきます。

事務局 竜野 茂康



2019 年度軽井沢写真コンテストの報告

今年度のテーマは「四季折々の美しい風景または軽井沢を楽しむ人々の心温まる風景やイベントの様子」でした。

応募数は風景部門63名112点、人々/イベント部門34名56点。入選者は右記のとおりです。

皆様おめでとうございます。2020年度も実施しますので多くの皆様からのご応募をお待ちしております。



会長賞「朝焼けに映えて」

①風景部門

グランプリ: 土屋芳孝様	星空の朝
会長賞: 佐藤 茂様	朝焼けに映えて
入選2点: 石田勝利様	朝焼けの矢ヶ崎公園
坂本美江子様	残雪の浅間山と山桜
佳作3点: 佐藤胸勝様	初秋の雨上がり
村田則一様	花咲く軽井沢
伊藤ゆみ子様	魅惑のかわせみ

②人々/イベント部門

入選2点: 小林芳夫様	決っておみごと!
今村舜匡様	頑張れ神輿
佳作3点: 中島喜代江様	新道のドンド焼き
土屋芳孝様	ゆうやけの南口
坂本美江子様	信濃追分宿をたどる

「2020年軽井沢写真コンテスト概要」



人々/イベント部門入選「決っておみごと!」

#軽井沢・冬ものがたり インスタグラムフォトコンテスト開催

軽井沢の冬を発信するイベント、軽井沢・冬ものがたりフォトコンテストはInstagram (Instagram) 上で開催しました。今年は 1,895件の投稿があり、選定は大変難航しました。一次審査で30点に絞り、その中から受賞作品10点が選ばれました。

軽井沢のステキな風景を撮影し投稿してくださった皆様、本当にありがとうございます。

来年も同様にInstagramでのフォトコンテストを開催いたしますので、よろしくお願い致します。



2020年 軽井沢若葉まつりはコロナウイルス感染拡大防止の為開催中止となりました
何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます